

AFU/PAC 開発メモ その2

dma_afu に独自回路を追加してみることにする。
一度ビルドした後に、build_synth/build/dcp.qpf を開いて、インスタンスツリーの、green_bs platform_shim_ccip_std_afu afu_inst u0 の下の dma_test_system.qsys を開く。
とりあえず、Qsys のファイルメニューから、new components とか選んで、コンポーネント作成ダイアログで Avalon MM-Slave とクロック、リセットを持ったシンプルなコンポーネントを作成、
テンプレートとなるファイルも作成する。
テンプレートとなるファイルができるので、適当に中身を変更して保存。
作ったコンポーネントは IP カタログに登録されているので、選択して、クロック、リセットと Avalon-MM Master に接続。
メモリアドレスを適当にセットして合成すればいい。
作ったコンポーネントを hw/rtl/filelist.txt に追加して、

```
% afu_synth_setup --force --source hw/rtl/filelist.txt build_synth  
% ${OPAE_PLATFORM_ROOT}/bin/run.sh
```

とか。